

精神疾患の症状ダイナミクスに応じたDecNefの試み

～患者の状態に応じた"フル"テーラーメイド医療～

概要

個人の特性に応じて変化するテーラーメイド医療は、疾患単位で画一的に実施されてきた精神医療の質を大きく引き上げつつあります。我々はさらに、個人内の状態の変動に応じて変化する“フル”テーラーメイド医療を提案し、それによる医療の質の更なる発展を目指しています。

特徴

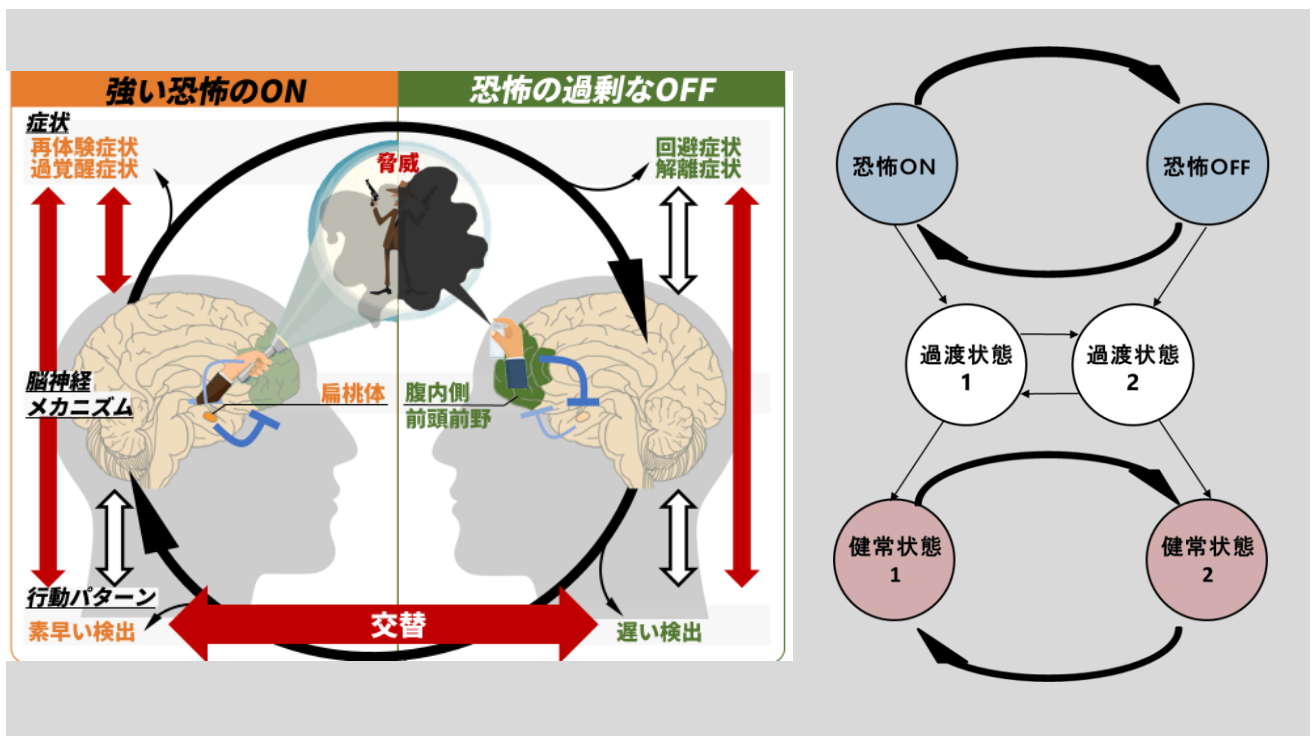
- 精神疾患の症状はダイナミックに変動します。例えば、心的外傷後ストレス障害の患者さんは「強い恐怖ON」による症状と「恐怖の過剰なOFF」による症状を交互に示します。
- 我々の研究室では、これまでにDecNefという「理想的な脳活動」の状態に個人の脳活動を誘導する技術を開発しており、現在DecNefの臨床応用を目指しています。
- 従来の脳活動の誘導技術では、治療効果の一人に一つの「理想的な脳活動」を定義してきました。我々は、精神症状のダイナミクスに応じて「理想的な脳活動」も変化するという仮説に基づき研究を進めています。

今後の展開

- 個人ごとの特性に応じたテーラーメイド医療が注目されていますが、我々は個人ごとのその時々々の特性に応じた「フル」テーラーメイド医療による医療の発展を目指しています。

対コロナへの関連

- コロナは心にも大きな影響を与え、コロナを契機に心的外傷後ストレス障害やうつ症状を示す方も少なくありません。このような症状への適切な予防・対応を考える上でもこの研究が役立つと考えています。



連絡先: 脳情報研究所 担当 千葉俊周 E-Mail: tchiba@atr.jp

本研究は、内閣府革新的研究開発プログラム(ImPACT)、日本医療研究開発機構「戦略的国際脳科学研究推進プログラム」、防衛装備庁(安全保障技術研究推進制度)の研究委託、KDDIとKDDI総合研究所との共同研究により実施したものです。